

『花を訪ねて： 萩』

## 鎌倉萩寺散策（令和1年9月15日（日））

鎌倉には花の名所としてのお寺・神社が多い。例えば、「櫻では鶴岡八幡宮、建長寺、長谷寺 等々」、「海棠の光則寺」、「紫陽花の明月院」、「竹の報国寺」、「苔の妙法寺」など多い。今回はビスターリの皆様をお誘いして「萩の宝戒寺」を始め、“鎌倉の案内”で出てくる幾つかの萩の名所に行ってみることにした。ご参加いただいたのは、伊藤、池田、神田、早坂、三浦の皆さんと陽田である。“秋の長雨”の時期ではあるので、例え小雨でも“萩も雨天には合う”と決定したが、実際には雨には降られず、暑いくらいだった。これもひとえに“晴れ女”の池田さんの参加のお陰であろう。

出だしは北鎌倉駅、9時30分に鎌倉街道側の改札口を出た所に集合である。しかし、案の定「円覚寺」側でお待ちになっておられた方もいたが。鎌倉街道を横断して「東慶寺」へ向かう。道は片側1車線だが、狭いながらも白線で仕切られた歩道があるので、来る車に注意しながら歩く。「東慶寺」は花では有名ではないが、色々の草花・木を植えていてくれる。しかし今日は全般的には花が少ない。今はようやく咲き始めた萩、秋明菊、角トラノオ（桃色）、曼珠沙華（別名：彼岸花）、水引草、櫻蓼（棒状に白色の花を付けた）、野葡萄 など。

少し南下して横須賀線踏切手前で、鎌倉五山第四位の「浄智寺」へ行く。この寺の萩もやっと咲きだしたところだった。小さな自然のトンネルをくぐった奥の洞窟に「布袋尊」が祀られていて、お腹をなでるとご利益があるというのだが。“誰かさんのお腹をなでたらご利益はあるだろうか”などと、失礼なことをつぶやく人がいたが。

須賀線踏切を渡り、5分ほど歩いた長寿寺の脇の坂が「亀ヶ谷坂切通し」で、萩の名所になっている。ここでは萩の花が登り坂約300mに亘って、咲き乱れている筈だったが、まだ咲き始めたばかりのところに、先日の台風15号の影響で木が折れて見るも無残であった。切通し坂を高度差約50m登って、向う側へ下り、再度須賀線のガード下をくぐり右折して「海蔵寺」へ。

「海蔵寺」の山門前の急な階段は両側に萩が生い茂っている。だがやはりまだ咲き出したばかりで迫力には欠ける。春に来たときには木の根元近くから切られていたから、枝が半年で大いに伸びたということだ。このお寺も花の種類が多く、萩の他に酔芙蓉（御存じと思うが、この花は朝咲いた時には白色で、段々ピンク色になり、夕方しぼむ頃には赤色になる。即ち酔っぱらった状態。）、桔梗、不如帰、吾亦紅、曼珠沙華などが咲いていた。

次は、「浄光明寺」へ向かう。ここも萩はまだ咲き出したばかりであったが、少しは花数が多くなっているようだ。

次いで「鶴岡八幡宮」へ向かう。折角だからお参りして行こうということになった。なにせ本日は年に一度の「例大祭」の日だから。入口近くでは、それほど高くはない仮設の櫓の上で年配、女性、子供などが練習も兼ねて3人並んで太鼓を叩いていた。明日の午後行われる“流鏝馬”のための砂を

敷いた馬場もできていた。外国人も含めて大勢の人がお参り・観光に来ている。和服姿のお嬢さんや、少し早い七五三の男の子・女の子なども居る。

大鳥居の前を通過して、「宝戒寺」へ行った。ここは「萩寺」として有名で、最も期待していたのだが、やはり少し早い。白色とピンク色の萩が咲き出している（咲いている花は半分以下だけど）。まだまだ蕾は沢山あり、萩の木は細く多くの枝が垂れ下がっているのでも、”咲き乱れる”ときり表現できない。この他に、酔芙蓉、白い曼珠沙華などが咲いていた。東久邇宮様お手植えの「柏楨」には樹齢は書いてなかったが、巨木で立派。

12時30分、「宝戒寺」を出て「鶴岡八幡宮」前から「段葛」を通過して鎌倉駅へ向かう。途中、皆さんは鎌倉に本店がある「豊島屋」に寄って、お土産に「鳩サブレ」をお買い上げになった。

鎌倉駅前に戻り、昼食を兼ねた反省会を開く。まだ早い時刻なので、“居酒屋”は開いていない。「みらいざか」か「サイゼリア」くらいなのだが、席数が多い「サイゼリア」の方が待たなくて済むだろうと向かったが、あにはからんや、かなりの人が待っている。空席は見えるが、サーバントが少ないので対応が間に合わないのだ。それでも15分位待って着席できた。

まずは生ビールで乾杯！（小生はノンアルで）ところがグラスを合わせても冴えない音、グラスではなくプラスチック製、「プラを減らそう！という趣旨に反するではないか」と飲む前から顔を赤くする方もおられた。皆さん、お歳のせいかやはり孫や病気の話も少しはありましたが、今回は山行の話が多く出ました。ただ、「主婦が食事を作ることに定年は無いの」というお話にはウーン。

今年の夏山山行は伊藤さんの“一人勝ち”でした。ビスターリの「燕→常念」、風の会の「檜」は何れも天候不良などで取りやめ。伊藤さんは8月初めに「白馬→梅海新道」を歩いたが天気に恵まれたそうです。池田さんの山歩きの初めは農協の人に誘われて燕岳に行ったそうです。この時中房温泉から合戦小屋に向かったが、小屋に着いた時大雨に降られて、皆でこれからどうするか鳩首会議をし、下山派と登る派に分かれたが、池田さんは強行派で突撃前進、暫く歩くと雨が上がり、後晴れてきたとか。以後「晴れ女」に大変身したそうです。

神田さんから「離島」に行ってみたいのご提案。早速池田さんから「神津島がいいよ」と。夜行船で翌日、天上山へ登り、島に一泊、翌日の昼の船で帰京するという行程です。利尻島もお奨めです。屋久島はどうでしょうということになり、今年ツアーで行ったが、道が崩れていて「宮浦岳」へは行けなかったとか。「そういえば、前回に行ったときには、突然の雨に降られて、翌朝に宿で陽田がドライバーでお札を乾かしていた！」という話まで出た。

伊藤さんから「皆さん、忘年山行には参加してくれますね」と。三浦さんが「そろそろ宿の予約をしておかねばならないのでは。10人以上は参加するだろうから、3部屋は必要か」と。以前から宿手配は三浦さんをお願いしているので、今回も宜しく願います。15時40分鎌倉駅前で解散した。

以上 陽田